Museo de Naturales de Geihoku

高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 33 号
2006.9.1
高原の自然館

苅尾（かりお）とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが，地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています．

もくじ

おしらせ

–第 7 回 八幡湿原再生協議会を開催

活動報告

–氷河期の生き残り，カワシンジュガイの観察

–小鳥の巣箱づくり

観察会案内

–土嶽の植生調査，秋

–雲月山の植物観察会

高原からの花だより

–運命的な出会いが導く生，サギソウ

おしらせ

第 7 回 八幡湿原再生協議会が開催されます

(2006.9.9)

開発により失われた湿原を再生し，地域の自然環境を保全するために広島県が進めている八幡湿原自然再生事業の協議会が 9 月 9 日土曜日の 13:00 より北広島町芸北文化ホールで開催されます．12:30 から傍聴の受付が行われます．傍聴定員は設けられていません．興味のある方は覗いてみてください．

【第 7 回八幡湿原自然再生協議会開催案内】

http://www.pref.hiroshima.jp/kaigi/kankyou/yahatashitsugen/kaisai060909.html

活　動　報　告

氷河期の生き残り，カワシンジュガイの観察

開催日時：2006 年 8 月 5 日（土）9:30
講師：内藤順一

芸北文化ホールで町の天然記念物であるカワシンジュガイの生活史や，日本の南限・世界の南限であるとの説明を聞きました．保護に関連したアマゴやアブラボテのこと，フィールドの確保など興味深いお話の後，現地へ出発しました．川の流れ方，砂礫の川底，ツルヨシの生えている環境を見てから，思い思いに川の中へ入ります．はじめは「水が冷た～い」と怖じ気づくものの，そのうち慣れてきて先生に箱めがねを借りたり，網でアブラボテやカワムツをすくったりして観察しました．貝が見つからなくて魚取りがメインになっているグループ，水中めがねでばっちり発見のグループなどありましたが，カワシンジュガイが見つかるとやっぱりみんな手に取って記念写真を撮っていました．川底に立っている「たちっかい」という方言どおりの様子も観察できて 3 センチ ~8 センチくらいの個体を 5・6 個水槽に捕獲し，サイズを測って，推定年齢を聞きました．昨年この場所には 40~50 個体いたそうですが少なく，大水で流されたのかもしれないということでした．それぞれの個体を上下間違えないように川底に立ててもとにもどしました．その後すこし上流の 100 個体くらいいたところを岸から確認しましたが，崩れていて付近に何個体かを目視しただけでした．カワシンジュガイは 100 年くらいは生きるということですが，昨年確認の 9.8 ミリの個体から今日は 8 センチくらいの個体まで確認され，各世代を通じて生息しているようです．この環境が保たれることを願いながら解散しました．[や]

「ここ．立ってる様子を観察して．」

こんなに深かった．

箱めがねや水中めがねで探した．水が冷た～い．

水中での様子.

生息地はこれくらいの川の流れ，砂礫の川底という環境.

感想などを言い合って，午前中の部はおしまい.

６センチくらいのカワシンジュガイ．40 年くらいか？

みなさんの印象に残った物

「カワシンジュガイが砂にささっているのを水中で見たこと.」「生きて，川底に存在している姿を見られたこと．この個体は，縦に直立していなかった．しかも，急流であったことに驚いた.」「カワシンジュガイの大きさ.」「カワシンジュガイを良く観察できた．貝とアマゴとアブラボテの共生関係が良く分かりました.」「カワシンジュガイ，アブラボテがたくさんいたこと.」「水が冷たい！！カワシンジュガイが砂にささって，パカッと開いているところ.」「「カワシンジュガイの生長に時間がかかるのに驚きました.」

参加したみなさんの感想（抜粋）

「おもしろかったです. 夢中になりました.」「1 つの生物を増やすのも，環境全体を整えていかないといけないのですねー.」「子どもも川に入って貝を見つけることが出来，楽しめたようなので良かった.」「100 年生きる事には驚きました.」「環境と生態系の面白さ.」「またサツキマスのときも来たいと思います.」「身近なところにとても大切な生き物がいる事を感じました.」「みんなでわいわい川に入って楽しかったです.」「来年はオオサンショウウオの調査をして欲しいです.」「またきます.」

活　動　報　告

小鳥の巣箱づくり

開催日時：2006 年 8 月 20 日（日）9:30
講師：暮町昌保

昨年と同じく，シジュウカラとヤマガラの巣箱作りです．鳥の鳴き声を聞かせてもらい，こんな鳴き声の鳥が入りますと説明を受けました．竹の穴をくり抜いた巣箱や古い空洞の木の幹やその他巣材に利用できるものを見せてもらい，さて作業開始．昨年に続き今年も参加の小学生もいて，去年とは違う形の巣箱作り．幼稚園組はお父さんたちが頑張って (?) りっぱな指導の元，完成．兄弟で別々の巣を作る人，兄妹で同じ巣を作る人と，みな思い思いに作業を進めました．ノコギリがなかなかうまく使えずに板が波打ったり，入り口の穴を専用のドリルで空けてもらい，全体の組み立てにかかり，まっすぐ釘を打てなくてドリルで穴を空けてから打ち込んだり，いろいろ苦心の末，比較的みなスムーズに (?) 出来上がりました．端材で何か作る人もいて，完成の記念撮影です．[や]

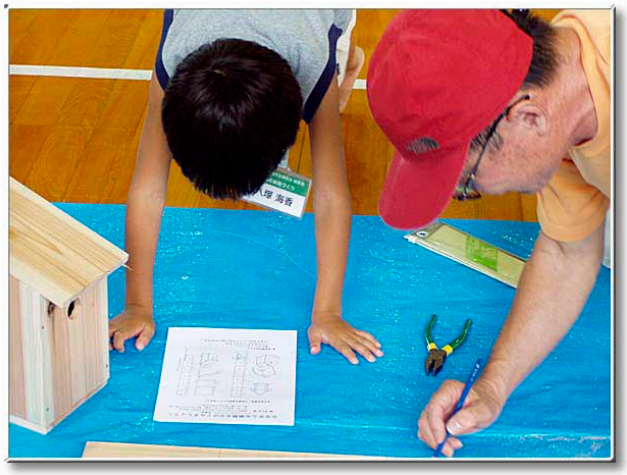
「こんな鳴き声を聞いたことがありますか？」

お父さんにノコギリの使い方を習う．

「みなさんおはようございます．講師の暮町です．」

フタを蝶つがいで止めて出来上がり．

ノコギリ使いが難しい.



17cm，21cm，21cm と線を引く.

みんな立派に完成しました.

【みなさんの印象に残った物】

「鳥の種により，数 mm 単位で穴の径が変わること.」「指を打って痛かった.」「普段できないノコギリ等が使えたこと.」「親と一緒に作ったこと.」「巣箱の組み立て.」「小さい子供と一緒に作業して，童心に返って楽しかった.」「巣箱ができてよかった．(4)」「あんなに小さな穴に鳥が入るということ.」「のこぎりやかなづちを使ったこと．(5)」「子どもとのこぎりを引いたり，工具を使った工作をしたこと.」「何回もくぎが出たことです.」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「すんなり出来ると思った割りには難しく，結局やり直しました．大人が本気になってしまいました.」「毎年たのしみにしています．たのしかった.」「変わった巣を作れた！」「子どもだけで来ると，なかなか難しいです.」「とても上手にできてうれしかったです．(3)」「難しそうだったけど，楽しく活動をしていました.」「久しぶりの大工仕事，楽しかったです．(4)」「巣の入口の大きさで入る鳥が変わるということを知り，驚きました.」「こんどは，くぎをななめにせずにうちたいです.」「講師の説明，対応とも親切でした.」「オオコノハズクの巣箱を教えてほしい.」「来年もやってネ！」「初めて参加したが，雰囲気が良かった.」

観　察　会　案　内

土嶽の植生調査，秋

開催日時：2006 年 9 月 18 日（月）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：
準備：汚れても良い服装，長靴，弁当など．
定員数：30 名
参加費：無料

実験地の継続調査を行います．7 月に行った夏の調査参加者からは「去年にくらべ湿地生の植物が多く見られた．もっと参加したいと思います．」「現地で以前のデータを見ながら，その変化を実際に目で見られたのがよかった．」などの感想がありました．あぜ波をせっちしてから 3 シーズン目の実験地はどうなっているでしょうか？はじめての方も，気軽にご参加ください．

雲月山の植物観察会

開催日時：2006 年 9 月 24 日（日）9:30
集合場所：
講師：和田秀次
準備：山を歩ける服装、弁当、水筒、筆記用具、双眼鏡など
定員数：30 名
参加費：300 円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

4 月 8 日に山焼きが行われた雲月山で植物の観察をします．昨年は 8 年振りに山焼きが再開され，今年は別の場所に火が入れられました．さらに，今年は牛の放牧が行われているので，全体的に植生が変わっています．ススキの穂がゆれ，秋の草花が咲きそろうこの頃，雲月山の見頃はピークを迎えます．昔の植生へと戻りつつある草原を堪能しませんか？

サツキマスの産卵

開催日時：2006 年 10 月 9 日（月）9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：弁当，雨具，双眼鏡，メモ，おやつ 等
定員数：30 名
参加費：300 円（ただし，西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

八幡を流れる柴木川は，三段峡によって海と分断されているため，サケの仲間は遡上してきませんでした．ところが，樽床ダムができたことで，ダムを海に見立ててアマゴがマス化し，川を上ってくるようになりました．この観察会では，サケ科の魚の分類について講演していただき，実際に現地でサツキマスの産卵行動を観察します．浅い柴木川に大きなサツキマスが泳いでいるのはおもしろい光景ですよ．

読　者　サ　ロ　ン

藤井さんからのお便りを紹介します.

「芸北」の白い花たちに魅されて

藤井壯次

2005 年 6 月 25 日、平見谷探索の途中で車窓から雄熊に出会った日。体調を崩して広島大学病院へ緊急入院。その後 1 年 2 か月「自然研」への参加不能。そして、2006 年 8 月 25 日、医師の許可を得て「城岩山荘」へ。

翌 8 月 26 日午前、「尾崎沼」周辺を散策。溜池と湿原の佇いに、自然と人間の共生の深密な関係に思いを馳せる。午後、「高原の自然館」で、白川・柳崎両氏のご助言を仰ぐ。

「自然館」から「苅尾山」の駐車場まで 15 分。「雪霊水」の水勢に驚く。いつもの約 5 倍は注いでいる。雷鳴が頭上を走る。

ぼくは＜白い花弁＞の穏やかで和らいだ花の精に恋している。かつて、岩手県滝沢村の友人から、宮沢賢治「マグノリアの木」が山毛欅林（ぶなりん）の中に咲く写真を頂いて以来である。

芸北の地には、「ヤマボウシ」「コブシ」「オオヤマレンゲ」「ササユリ」「カンボク」など、こよなくぼくは愛する。1 昨年秋「来夢戸河内」で手にした「オオヤマレンゲ」の幼木は、今春直径 15cm の花弁が 5 つ開いた。元気に大きな葉っぱが、わが家の庭で泳いでいる。

今日「苅尾山」5 合目辺りで「山毛欅」の巨木の根っこが裂けているのを見た。痛々しく惨めにも思えたが、深緑の枝葉が風にはためき、ぼくを見下ろしていた。その姿には、生命の輝きを賭けた＜老いの青春＞を見る思いであった。

観　察　会　案　内

今後の予定は次のとおりとなっています. 参加の申し込みや不明な点などは，事務局の方までお気軽にお問い合わせ下さい.

よろしくおねがいします.

2006 年
- 9 月 18 日　植生調査
- 9 月 24 日　雲月山の植物
- 10 月 9 日　サツキマスの産卵
- 10 月 28 日　キノコの観察会
- 11 月 11 日　冬鳥の観察・紅葉とゴギの産卵
- 11 月 19 日　千町原の草刈り

2007 年
- 1 月 21 日　アニマルトラッキング
- 2 月 18 日　スノートレッキング
- 3 月 11 日　苅尾トレッキング

― インターネット版苅尾電波塔の紹介と購読移行のお願い―

苅尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています．印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます．さらに e-mail なら，関連ホームページを見たり，そのまま返事をすることで観察会の申し込みができたり，とっても便利です．パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます．まずは高原の自然館ホームページをご覧下さい.

高原の自然館ホームページからは，苅尾電波塔（紙版）の pdf ファイルをそのままダウンロードできます．郵送している紙版に比べ，鮮明なカラー写真を見ることができ，ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます．そこで, 高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています．今後，紙版の郵送が不要な方は，高原の自然館までご連絡ください．みなさまのご協力をお願いいたします.

【高原の自然館】http://shizenkan.info/

高原からの花だより

運命的な出会いが導く生，サギソウ

新涼の挨拶が交わされるようになると、八幡高原の夜はこたつが欲しいほどの冷え込みになります。植物の緑も心なしか鮮やかさを失い､実りの秋に備えているように見えます。

夏の終わりの八幡湿原に舞っていたのがサギソウの白い花です。鷺が翼を広げたような姿はいかにも涼しげで、山野草に興味のある人なら知らない人はいないでしょう。

ひと目見ただけでも特徴的な花ですが、詳しく見てみるとラン科特有の花のつくりを観察できます。鷺の頭と羽にあたる部分は１枚の花弁で、尾羽の部分が２枚の花弁でできているので、合計３枚の花弁を持ちます。

萼片も左右と上に３枚あります。雄しべは雌しべに合着しており、蕊柱（ずいちゅう）というラン科特有の器官を作っています。花粉を運んでもらう虫を呼ぶために、長く下がった距（きょ）と呼ばれる部分には蜜が詰まっています。

蜜を吸うために昆虫が訪れると、花粉の塊が虫の体にくっついて、別の花へと運ばれます。無事に花粉が届けられると、一つの花に3000もの種をつくります。ラン科の植物はたくさんの種をつくりますが、小さな体でこれほどたくさんの種を作ることができるのは種に栄養を持たせないからです。それでは、種はどうやって芽生え、生長するのでしょうか？

自然界では、ラン科植物の種は「ラン菌」と呼ばれる特殊な菌と共生することによって芽生えます。逆に、この出会いがなければ、いくらたくさんの種が播かれても生長することができません。私達がランの花を見るということは、それほどにすごいことなのです。

今日、八幡湿原をはじめとする全国各地の湿原で、サギソウの花は激減しました。その大きな原因は乱獲や湿原への踏み込みなど、心ない人の行いです。せっかく芽生えた命を悲しい運命に導く行為は、これ以上繰り返したくないものです。

この記事は『広報きたひろしま 18 号』に掲載されたものを転載したものです.

先日，滋賀県の伊吹山に行ってきました．伊吹山は石灰岩でできた山です．石灰岩地域というのは特殊な植物が多いのですが，伊吹山も固有種が多く，ここで発見され「イブキ～」という名前が付けられた植物がたくさんあります．今回も，たくさんの花を見ることが出来ました．イヌワシが飛ぶ様子も目撃し，たいへん良い旅だったのですが，そういうものを見るにつけ，頭に浮かぶのは「今頃，芸北はどうなってるかなぁ」ということなんですよね...

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）
〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/　　staff@shizenkan.info
冬季連絡先：0826-35-0070（芸北文化ホール）